

# 留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007  
WEEKLY REPORT

会長/中川 勝美 幹事/対馬 健一



## 率先しよう

2006~2007年度  
国際ロータリーのテーマ

No. 2271 第32回 3月7日

### プログラム

- 本日  
来賓卓話「道州制について」  
北海道留萌支庁参事 濱口登代喜様
- 次週予定  
来賓卓話「支庁制度改革について」  
北海道留萌支庁参事 濱口登代喜様

結婚記念日  
3月13日 平井 誠治

留萌ロータリークラブ会長テーマ  
魅力ある明るく楽しいクラブは、  
ロータリーを知り、  
会員家族との親睦から

### 出席委員会報告

前 例 会	会員総数	51名
	出免会員	7名
	欠席会員	13名
	出席率	70.45%

前 々 回	第29回	2月14日
	欠席会員	7名
	メイクアップ	3名
	修正出席率	90.91%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

### 会長報告

- 20日におこなわれた南部ブロックの第2回小中学校特殊学級3名の卒業生より、お礼の手紙をいただきました。回覧します。
- 21日の創立46周年と遠藤会員の還暦祝いでは、親睦委員会の皆様大変ご苦勞様でした。
- 3月28日の例会は情報例会でテーマは「いきいきロータリー家族」と深瀬会員、西谷恭治会員の慶祝のお祝いを兼ねた夜間例会の予定です。情報委員会と親睦委員会の皆様よろしくお願ひします。明日の定例理事会にて承認されましたら、早速皆様にご案内いたします。

### 幹事報告

- 1) 先週もご案内致しましたが、2007年度版のロータリー手帳の最終申し込みを本日までお受けいたします。幹事までお申し込みください。
- 2) 明日3月1日は第9回定例理事会、第5回クラブ協議会です。理事・役員、委員長さんはお忘れなく。

会報受領先

- ・砂川 R C 1806号 ~ 1809号
- ・芦別 R C 2389号 ~ 2392号

ゲスト

国際ロータリー第2510地区  
財団国際親善奨学生 村上 沙織 様

 **愛好会** .....

麻雀愛好会 齋藤愛好会会長

本日、6時30分よりスナックいふにて麻雀愛好会2月例会を開催します。よろしくお祈いします。

 **3分間情報** .....

情報委員会 河部委員

常日頃から尊敬申し上げます高田情報委員長、行徳副委員長の後塵を拝し、本日から6月末までの4ヶ月担当いたします、よろしくお祈いいたします。

\* \* \* \* \*

**RI国際大会で初のロータリー**

**世界平和シンポジウムについて**

ソルトレークシティで開催される国際ロータリー(RI)国際大会の直前、2007年6月14~16日に、ロータリー世界平和シンポジウムが開かれます。これは、RI国際大会と同時開催される初のシンポジウムとなります。

シンポジウムの議題には、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターの歴史や、ロータリー平和フェローの活動が世界の紛争解決に及ぼしている影響などについてのパネルが盛り込まれています。

国際大会に登録済みのロータリアンまたはその友人は、シンポジウム150米ドル、夕食会は50米ドルの追加料金で参加できます。

\* \* \* \* \*

3月7日は日本初の女帝推古(すいこ)天皇がなくなった日です。

飛鳥時代の日本初の女帝(第三十三代、在位期間592~628の36年間)

欽明(きんめい)天皇の第三皇女。聖徳太子は「おい」にあたります。

この推古(すいこ)天皇は、敏達(びたつ)崇峻(すしゅん)両天皇(この二人は実の兄弟)の妹になります。

つまり、推古(すいこ)天皇と夫:敏達(びたつ)天皇とは実の兄妹の関係で、兄妹間で結婚

していました。

実に驚く近親結婚ですが、当時は異母兄妹の結婚は特に問題視されていませんでした。

こうした天皇家における近親結婚は、王家を他の豪族たちから卓越したものとすべく積極的に位置づけられていた節もみうけられます。

以来、女帝天皇は今日まで9人いらっしゃいましたが、うち未亡人は3人、オールドミス6人(未婚)、平民男性と結婚した女帝は存在しなかった。

 **ニコニコBOX** .....

・PC愛好会でエクセルの講習会に参加 河部会員のご指導ありがとうございました

中川会長

・PC愛好会で大変迷惑をかけました

齋藤会員

・PC愛好会を開催 田中、中川会員他5名の参加を頂き内容のある講習会でした

河部会員

前 回 852,000円

今 回 3,000円

累 計 855,000円

 **プログラム** .....

来賓卓話

ロータリー財団国際親善奨学生

村上 沙織 様

現在私は、神戸市外国語大学4年生です。国際関係学専攻で、大学では経済学、政治学、途上国地域研究など様々な科目を勉強しております。これらの学習を通じて、今日世界的に危惧されている諸問題と、それに対していかに解決策を見出せるのかということにつき、幅広い視点から研鑽を積んでいます。統計学や経済学における数量的モデル分析に加えて、政治学、外交政策、国際関係などの分野における物事の文章化や、その要点・概略を即座に捕らえる事は私の得意な分野です。卒業論文の執筆を見据え

て行われているゼミでは、途上国における社会経済問題に関する研究を行っており、特に職業訓練と雇用創出による貧困の削減に焦点を当てて調べています。

私は昨年8月から、インドのカルカッタのBIVAという職業訓練NGOで、インターンシップにより研究員として7ヶ月間働いていました。BIVAは都市や農村からやってくる貧しい若者達に、ほぼ無償で様々な職業訓練を提供しているNGOです。私はそこで、フェアトレードについてリサーチを行い、研究報告書を執筆しました。この報告書の目的は、BIVAが訓練生が作った製品を売るためのノウハウを示し、また訓練生の持続的な雇用を確保するためには、どのような戦略をとるべきなのかを説明するものです。この報告書の内容は、フェアトレード・フォーラムやフェアトレード製品のバイヤーの情報など、大変実用的なものが多く、将来BIVAはこれをフェアトレード・ガイドブックとして使う予定です。

私の今後の課題は、学術面で得た知識と現場で得た実務経験とを組み合わせ、相乗効果を生み出させるようにする事です。そのために、私は海外の大学で学ぶ事を選びました。大学院のコースでは、マーケティングに関する知識不足を補い、雇用政策に関する専門性を深め、コンピューターや統計学の最新の技術を身に付けたいと思っています。最終的な目標達成にはまだまだ沢山の実務経験を開発の現場で積む事も、必要不可欠だと認識しております。

私は将来の仕事として、貧困の削減に取り組みたいと思っています。私のキャリア目標は、開発プロジェクトを行っている国際機関で、専門家として働く事です。さらに、具体的に言えば職業訓練や雇用創出などを含む人間開発のプロジェクトを行いたいと思っています。そして実用かつ学術的に革新的な論文を出していくことによって、開発学に貢献したいと願っています。私の長期的なキャリア目標は、「教育開発」の質を高め、これを世界中の人々に広めていくことです。私は、平和に暮らしている人々に、世界には貧困や戦争といった大きな問題がある



現実を伝え、その様な問題に対する意識を今以上に高めてもらい、これらの問題を解決する方法を示す事により、現在の状況の改善に貢献したいと考えています。

私がこのロータリー国際親善奨学金を申請する理由は、超我の奉仕と世界理解と平和を促進するというロータリーの理念が私の理念と完全に一致していると信じて止まないからです。世界中の多くの人々が、紛争や貧困、飢餓といった問題で苦しんでいることを目の当たりにし、当時中学生であった私は大変ショックを受けました。その時より自分の使命はそのような恵まれない人々、とりわけ極貧状態にある人々の生活を改善するために一生をかけて活動することだと悟ったのです。以来、私はこの使命を全うすることが出来るよう、日々努力を続けています。もし私達がより良い世界を構築したいと望むのであれば、自ら進んでさらなる一步を踏み出し、貧困問題を解決しなければなりません。そして私は、心からその行動を起こす一人でありたいと願っています。この点において私の使命達成には、ロータリー国際親善奨学金が大きな助けとなり、これと同時に、私自身が大学院の勉強で得られる情報や知識などを詳しく報告することで、ロータリー財団に貢献出来るだろうと考えています。

私の希望専攻分野は、国際開発です。このプログラムでは、幅広くかつ内容の深いコースを学ぶことが出来ます。私は、専門的な人間開発と雇用創出政策に加えて、マーケティングや国際ビジネスも学びたいと考えています。さらに実践的なコースワークを通して、現場で応用で

きる開発学、開発経済学、統計学の知識を習得したいと思っています。将来現場で任務をこなすためには、同時に途上国でのインターンシッププログラムに参加し、貴重な実務経験も必要だと思われます。従って、学術的な知識と開発の現場での経験を最も効果的に結びつけるには海外の大学院で学ぶ事が最善の道であると確信しています。そしてこの知識と経験の相乗作用は、私が将来国際機関で専門家として働く際には必要不可欠なものです。また、私が英語圏の大学院プログラムを選んだ他の理由としては、英語のコミュニケーションが私の将来の職場では必須だからです。

私のキャリア目標の1つは、貧困削減に取り組んでいる国際機関に勤めることです。この決意はインドでのNGOインターンの経験を糧にさらに確固たるものになりました。キャリア目標の2つめとしては、現場での実務経験で得た知識や技術を開発学の分野に還元することにより、開発学に学術的に貢献することです。これにより、援助政策をより良いものにすることが可能だと考えています。さらに、書籍の出版や教育セミナー、講義の開講によって日本人々に貧困のメカニズムや貧困を削減するための手段などについて学ぶ機会を提供したいと思っています。日本では開発学という分野の体系はあまり整っていませんし、多くの人々に認知されているとも言いがたいのが現状です。私は、開発の専門化として、またロータリアンとしての活動に励む事により、人々の発展途上国や日本社会への認識をより良いものにし、世界理解と平和を促進することを熱望しています。

大学のゼミで、職業訓練、雇用創出、貧困削減などについてプレゼンテーションをしている。

2001年、大阪と神戸の多くのNGOを訪問した結果、PHD協会の会員になり、セミナーや様々なボランティア活動に約1年にわたって参加した。その間、友人たちとその体験を共有し、彼らにそのような活動に参加する事を促した。

2004年、国際エッセイコンテストに論文を投稿した。その際のテーマは、如何にしてアフリカにおける開発援助の質を向上させるかという事と世界における今後の国際協力のあり方についてである。

私がインドのカルカッタのB I V AというNGOでインターンとして働いていた時、リサーチャーとしての職務の他に、以下の活動に自発的に参加した。

2005年10月、インドの西ベンガル州のピアリという村への、洪水緊急援助チームの一員として救援活動に従事した。その活動内容は、被害状況の調査、物資の配給であり、私はこの緊急援助計画に全ての段階で参加した。私が先導してB I V Aの様々な活動の写真を撮り、ホームページ、カタログ、パンフレットの作成に役立てた。

毎月、NGOの機関誌「B I B A」を作り、記事を投稿した。

2006年1月14日カルカッタで、「持続可能な発展のための教育のあり方」に関する国際セミナーに参加した。大変多くの聴衆の前で、その問題における自己の見解を示した。

2006年2月12日、B I B Aの設立記念式典で自分の研究論文の完成や、インドでの体験についてのスピーチを行った。

私がイニシアチブをとって、B I V Aと他のNGOの間で、職業訓練コースを連携して行うという計画の下地を作った。本計画は現在進行中である。